

令和6年度 年間学習指導計画案

科目	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1単位 (1、2学期)	学年・学科・ コース	2年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門2 看護学入門8 看護学入門9 看護学入門10 (メヂカルフレンド社)	栄養・薬理 成人看護Ⅰ 成人看護Ⅱ 成人看護Ⅲ		副教材等	なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、疾病の成り立ちと回復の促進に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の成り立ちと回復の促進について体系的・系統的に理解するようになる。 ・疾病の成り立ちと回復の促進に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・疾病の成り立ちと回復の促進について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人々の健康状況と疾病の予防や早期発見、回復の促進について考える科学的視点の一つとして、病理病態学や薬理学の基礎的事項を人間の生活行動と関連付けて理解することによって生活者である人間の健康状態を観察する知識を身に付けている。	疾病の成り立ちや回復の促進に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえ、疾病の予防や早期発見、回復の促進に向けて解決する力を身に付けている。	人々の健康の保持増進のために、疾病の成り立ちと回復の促進の内容を活用する実践的・体験的な学習活動を通して、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容 (ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7 8	各機能の障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内部環境調節機能の障害 ・ 造血機能の障害 ・ 免疫機能の障害 ・ 精神機能の障害 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各機能の障害について理解できる。 ・ 各機能の障害が心身に及ぼす影響を踏まえ、予防や健康管理について考えることができる。 ・ 各機能の障害について自ら学び、多様な人々の安全・安楽を守り、生体の回復の促進を目指して主体的かつ協働的に看護の実践に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 提出物 小テスト
9 10	各機能の障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神経機能の障害 ・ 運動機能の障害 ・ 排泄機能の障害 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各機能の障害について理解できる。 ・ 各機能の障害が心身に及ぼす影響を踏まえ、予防や健康管理について考えることができる。 ・ 各機能の障害について自ら学び、多様な人々の安全・安楽を守り、生体の回復の促進を目指して主体的かつ協働的に看護の実践に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 提出物 小テスト
11 12	疾病と薬物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬物の作用 ・ 薬物と生体の反応 ・ 薬物療法 ・ 薬物による健康被害 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病と薬物について理解できる。 ・ 疾病と薬物が心身に及ぼす影響を踏まえ、薬物を扱う看護の役割の重要性について考えることができる。 ・ 疾病と薬物について自ら学び、人々の安全を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト